

善導大師

◆ 目次 ◆

1	当時の長安……………	2
2	善導大師の伝記……………	4
3	善導大師のお言葉……………	11
4	善導大師と法然上人……………	16
5	現代に響く善導大師からのメッセージ……………	19

今からおよそ一三〇〇年前の中国は唐という時代でした。都は長安ちやうあん（現在の西安せいあん）。ローマとの貿易の交通路「シルク・ロード（絹の道）」の出発地点でもありました。当時、世界第一の人口と規模を誇り、政治・経済・文化が最も進んだ都市で、特にシルク・ロードによって世界中から多くの人が長安に集まり、仏教や道教のみならずキリスト教やイスラム教の寺院も多数建立されました。

この長安で、「阿弥陀さまのお名前を呼べば、誰もが必ず救われる」という教えを声高らかに説いていた一人のお坊さまがいます。善導大師ぜんどうだいしです。

多くの浄土宗寺院の本堂には、善導大師の像が祀まつられていますから、きつとご存じの方もいらっしゃるでしょう。本書では、この善導大師についてひもといていきます。

1 当時の長安

善導大師が活躍した時代の長安は、人口が百万にも達した世界最大の都市でした。そうした都会に住んでいると、毎日が住み心地のよい家・美味しい食べ物・音楽・文学・娯楽などで満たされ、つい享樂的に過ごしてしまいがちです。その一方で、とにかく仕事をこなすことで気持ちがいいになり、家族や周囲のことをゆっくりと見渡す余裕を失ってしまうのも事実です。

また、当時の中国では戦乱や飢饉ききんも度々起こりました。善導大師はそうした社会の有様を目の当たりにし、「今の時代を見渡すと、人の心はもはやどうしようもないほどに乱れている。人々は毎日の生活の中でのさまざまな出来事の煩わしさに心惑わし、仕事で疲れきっている。政治は混乱し、社会的な秩序も崩れつつある。内乱や戦争も、一体いつ終わるともわから



ない」と述べています。

今日の社会と比べても、あまり大差がありません。

善導大師は、一見したただだと裕福なようでも、よくよく見渡すと多くの人々が毎日の生活の中で悩み苦しみ、そして哀しんでいるという実情を知っていました。このことは今の私たちの毎日にも、そのまま通じるのではないのでしょうか。

2 善導大師の伝記

善導大師の伝記は、中国（唐代～清代）と日本（鎌倉時代～江戸時代）で書かれたものを合わせると、約三十にも上ります。大師が後世の人々にどれほど崇敬されていたかがうかがえます。

ある伝記によると、善導大師は六一三年生まれ、六八一年寂、六十九年の人生でした。

では、大師は大都市長安でどのような少年時代を過ごしたのでしょうか。実は残念ながら出生の地については諸説があり、また最初にどの先生について出家して僧侶となったか、どのような勉強をしたかなど、はつきりとはわかっていないことも多々あります。

ある伝記には、善導大師が修行中、阿弥陀さまの西方極楽浄土の様子を目の前にありありと見たと書かれています。おそらく出家して間もない頃